

委員長	織田 吉郎
副委員長	伊原 清良
委員	平野 弘和
委員	小野塚 雄
委員	関 一憲
委員	青木 忠茂

ロータリー財団に対しての各種寄付はじめ、様々のご協力に対して、心より感謝を申し上げます。さて、ロータリー財団は創設100周年を迎えるのに併せ「未来の夢計画」を立案し、“新地区補助金”や“グローバル補助金”を世界中で実験的にスタートさせています。日本でもパイロット地区として6地区が選ばれ、試行錯誤を繰り返されている様子であります。そして当2790地区もいよいよ次年度より「未来の夢計画」が適用されることとなります。

私ども、第2790地区ロータリー財団委員会メンバーは大きく変化していく中で、『国際ロータリー財団から活動のための財源を引き出す』にはどうすべきかと膨大な情報と楽しく格闘させて頂いているのが実情です。ご承知のように、財団プログラムの業務サイクルは年度をまたいでまいります。MOUと呼ばれる覚え書や事務処理も煩雑で、1つタイミングを間違えると1年を棒に振るなどと、いうことにもなりかねません。現在でも各種の案件が日々、舞込まれ、それぞれの担当委員が問題処理を鋭意実行しています。

地区ロータリー財団委員会の今までの実績としましては

- ① 8月4日に開催しました、国際奉仕委員会・ロータリー財団委員会との合同セミナーには、各クラブから会長、幹事、国際奉仕委員長、R財団委員長の皆さんを中心に320名の参加者を得まして「未来の夢計画」の概要をご説明いたしました。クロスプロモーションを意図して、織田ロータリー財団委員長が「大きく変わるべき、国際奉仕」と言えば、村岡国際奉仕委員長が「夢で終わるな、ロータリー財団」と返すユニークなものでした。くわしくは、下記のカバナー事務所への行事報告書をご参考下さい。
- ② 国際親善奨学生は「ロータリー地区奨学生」と呼び名が変更されます。この奨学生へのオリエンテーションは「ロータリーの基本を理解してもらうこと」に重点を置いて、スポンサークラブの会長・幹事・カウンセラーの皆様にもご同席いただいて、有意義な意見交流の会合を開催できました。学友会OGによるロータリーへの感謝の言葉から、このプログラムの質の良さを実感いたしました。奨学生とカウンセラーとのご縁や学友会組織の世界に広がるネットワークはロータリークラブにとってまさに宝物であります。オリエンテーションの担当は伊原です。くわしくは、下記のカバナー事務所への行事報告書をご参考下さい。
- ③ グローバル補助金部門は「ロータリー奨学生」と呼ばれます。現在3人の大変、優秀な希望

者が国際財団の高く、厳しいハードルに涙ぐましいチャレンジをしています。次年度、何としても最低一人は送り出したいと必死に国際財団にくらいついています。財団委員会はこの希望者の方々との面談を致しました。三名が出席され、その情報をもとに和文と英文との申請書をそれぞれにプレ申請を国際財団に提出しています。担当は小野塚です。くわしくは、下記のカバナー事務所への行事報告書をご参考下さい。

- ④ 旧システムの最終年度となる地区補助金は、合計 19 件もの申請を頂きました。希望金額の合計は約 87,000 ドルになりました。しかしながら地区補助金の総予算額は 25,000 ドルのため真剣に配分を決定し、各クラブに送金いたしました。中には素晴らしい計画でありながら、補助金に該当しない案件もありましたが、次年度はぜひとも、さらに良い計画を立てて、再びチャレンジしていただきたいと考えております。皆様のクラブと地域がさらに活性化出来る様、サポートしてまいります。担当は関です。
- ⑤ グローバル補助金部門の他の「人道的プロジェクト」は木更津東 RC よりの「山羊銀行」など可能性の高いプログラムを申請して頂けそうなクラブがあります。どうか、他クラブの皆さんも、思い切ってチャレンジされて、みて下さい。担当は平野です。
- ⑥ ロータリー平和フェロシップは、平和および紛争解決の分野における国際問題研究のために世界中から毎年修士課程と、専門能力開発修了証プログラムに各 50 名の平和フェローが選考され、世界の 7 大学 6 ロータリーセンターで研究を行なうプログラムです。国際基督教大学(ICU)は、アジア地域で唯一の修士課程のロータリーセンター設置校です。現在、10 期 9 名、11 期 12 名、合計 21 名のフェローが ICU で研究中です。ホストエリアの 2750(東京),2580(東京),2590(神奈川),2780(神奈川),2770(埼玉),2790(千葉)の各地区は連携して ICU のロータリー平和フェローを支援しています。今年度、当地区が担当する 10 期 1 名と 2 名の 11 期フェローは、市川東 RC、船橋 RC、船橋南 RC のご協力により各クラブ会員にカウンセラーをお務めいただいております。2002 年にこのプログラムがスタートしてから日本人フェローは 27 名おります。その一人として市原中央 RC 推薦の 11 期フェロー宇野カオリさんが 2012 年 9 月より 2 年間、ICU で研究を開始しました。「平和」がテーマの今年度、当地区から初の平和フェロー誕生はたいへん喜ばしいことです。平和推進パイオニア地区の当地区は、ロータリー平和フェロシッププログラムに地区財団活動資金(DDF)から毎年 25,000 ドルを醸出しております。皆様からのご寄付は、平和を担うリーダーの育成に有効活用されていることを報告いたします。今後ともロータリー財団の教育的プログラムへのご協力をよろしくお願いいたします。担当は青木です。

そして 11 月末に財団地域セミナーがありました。1 月には米国サンデゴでの財団セミナーが続き、「未来の夢計画」の細部が最終的に煮詰まってくるものと思われます。寄付をして頂くことにとどまらず、寄付された資金を有効にお使い頂くこと、それが『クラブ活性化』の重要な柱のひとつであることを再度、ご認識、ご検討をお願い申し上げまして、地区ロータリー財団委員会のご報告とさせていただきます。ありがとうございました。

## 行事報告書

行事名	国際奉仕委員会・ロータリー財団委員会合同セミナー
日時	平成 24年 8 月 4 日 ( 土 ) 10 時 00 分 ~ 16 時 00 分
場 所	千葉県 京葉銀行文化プラザ
内 容	「大きく変わるべき！国際奉仕」・「夢で終わるな！R・財団」をメインテーマに国際親善 奨学生学友会会長との対談、映像での平和フェローの紹介、グローバル補助金と新地区 補助金については、参加者からの意見を取り入れた双方向意見交換型のセミナー。
出席者	第2790地区ガバナー・研修リーダー・研修委員・ガバナーエレクト・ガバナーノミニエ ガバナー補佐・ホストエリア・コーディネータ補佐・カウンセラー・クラブ会長・幹事・ 国際奉仕委員長・ロータリー財団委員長など総勢310名の参加。
備考	10：00～16：00 までの長時間の合同セミナーでありながら、310名という予想をはるかに 超えた出席を頂きましたので、会場が満席となり、急遽席を追加するほどの盛況でした。 内容も充実していたのか、昼食後の退席者も少なく、ほとんどの方が最後までしっかりと 参加して頂きました。次年度から開始される「未来の夢計画」の内容とロータリー財団、 国際奉仕委員会が連携することの重要性を十分に理解して頂けた合同セミナーでした。 地区委員会はクラブ活性化のお手伝いに徹するという目的を理解し、クロスプロモーション を念頭おいて企画を練り上げ、委員がそれぞれ予想以上にまとめ上げてくれました。

## 行事報告書

行事名	第2回 国際親善奨学生オリエンテーション
日時	平成 24年 9月 15 日 ( 土 ) 15 時 00 分 ~ 19 時 00 分
場 所	千葉県 ホテル ザ・マンハッタン
内 容	国際親善奨学生へのオリエンテーションはルールとして義務付けられている。
	ロータリー財団委員会が「日本の良さ」をそれぞれに語り伝え、留学に際しての心の手土産(日本の文化など)のひとつを渡すための会合である。
出席者	国際親善奨学生2名(才田・神藤)、推薦ロータリークラブの会長・幹事・カウンセラー
	学友会代表、ロータリー財団委員会など総勢14名の参加。
備考	ロータリー財団委員会は、国際親善奨学生への「オリエンテーションはどうあるべきか」を
	議論した結果、従来の学友会中心による英語表現力などのチェックに重点をおく形式から
	しっかり、「ロータリーの本質とは何か」を理解してもらうことが重要と考えました。
	席上、学友会代表の一人、鎌田由美子さん(イスラム美術・ニューヨーク大学・博士号)
	による「ロータリーへの感謝の念」や留学中に経験された様々の内容の濃い話には
	二人の国際親善奨学生も含め、参加者一同、感動をかくしきれず涙をぬぐう場面もあり、 双方にとって、大変に有意義なオリエンテーションであったと思われます。

## 行事報告書

行事名	第1回 グローバル補助金部門希望者面談会
日時	平成 24年 10月 27 日 ( 土 ) 15 時 00 分 ~ 19 時 00 分
場所	千葉県 ホテル ザ・マンハッタン
内容	新しく開始される「グローバル補助金部門の奨学金希望者」に対する面談は必要であると「未来の夢計画」のパイロット地区よりアドバイスにより実施した会合である。
出席者	奨学金希望者3名、学友会会長、ロータリー財団委員会など総勢8名の参加。
備考	ロータリー財団委員会は、正式名「ロータリー奨学生」と呼ばれるグローバル補助金部門の奨学金希望者とはメールだけのやりとりに留まっていました。一步前進させる必要を感じていました。合格か非合格の判定は国際財団の掌中にあり、そのハードルは大変に高いものであるが、参加した希望者たちは学識的には相当に高いレベルと思われた。席上、本人たちの自己紹介から合格までの道程、並びに推薦クラブの紹介等の話をし、更にはロータリー理解や今後のスケジュールなどの情報交換しました。双方にとって、有意義な会合であったと思われます。